

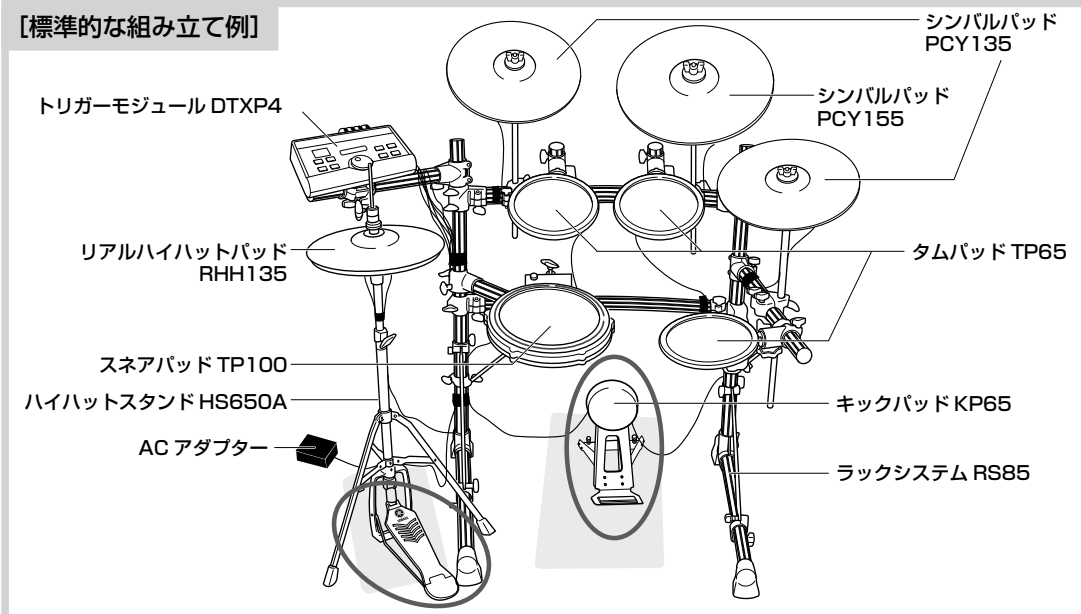
YAMAHA SILENT SESSION DRUM™ DTXPRESS IV スペシャルセット V2 組立説明書

この説明書では、DTXPRESS IV スペシャルセット V2 の標準的な組み立て方を説明します。下図のように組み立てと配線を行ないます。電源を入れる前の段階を説明します。

重要 組み立てには『ラックシステム RS85』、『パッドセット DTP4K2SP』、『トリガーモジュール DTXP4』の入った3つの梱包箱が必要です。

注意 別売のドラムマットがある場合には初めに床に敷いておきます。ドラムマットが無い場合、床に傷がつくのを防ぐため下図の○印で示す2つの部品を扱うときは必ず床に梱包材の段ボールなどを敷いて組み立てを行なってください。

【標準的な組み立て例】



※ パッドセット (DTP4K2SP) に同梱されているパッド類の保証につきましては、パッド類の取扱説明書に記載の保証書をご利用ください。

安全上のご注意 ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのもので、注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

※ お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
※ パッドやラックに付属の組立説明書や取扱説明書も必ずお読みください。

記号表示について

この機器や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

- ⚠ 「ご注意ください」という注意喚起を示します。
- 🚫 ～しないでくださいという「禁止」を示します。
- 🔒 「必ず実行」していただくという強制を示します。

警告	この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。
🚫	ケガをするおそれがありますので、小さいお子様が取り扱いされる際は必ず保護者が付き添ってください。
🚫	シンバルホルダーやタムホルダーの先端部分はとがっています。ケガの原因になりますので、取り扱いにはじゅうぶんに注意してください。
🚫	キックパッドやフットペダルに取り付けられているすれ防止用スパーは先端部分がとがっています。ケガの原因になりますので、取り扱いにはじゅうぶんに注意してください。
🚫	この製品を設置される際、固定用のナット等はしっかりと締め付けてください。また、固定用ナット類をゆるめる際は急激にゆるめないでください。パッドが落下したり、ラック、パイプ、スタンドの部品の落下、転倒などにより、ケガの原因となります。
🚫	この製品を設置される際、不安定な場所（水平でない場所、ぐらついている台の上など）に設置しないでください。転倒、落下などにより、ケガの原因となります。
🚫	この製品を、不安定な場所（水平でない場所、ぐらついている台の上など）に設置しないでください。転倒、落下などにより、ケガの原因となります。
🚫	この製品を設置される際、接続ケーブルなどの引き直しにはじゅうぶんに注意してください。足を掛けて転倒するなど、ケガの原因となります。
🚫	この製品を分解したり、改造したりしないでください。ケガまたは故障の原因となります。
🚫	ラックに腰かけたり踏み台にしないでください。転倒したり壊れたりして、ケガの原因となります。

注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、財産が損害を受ける危険のおそれがある内容を示しています。
🚫	クランプを調節する際、指に注意してください。指が挟まれてケガをするおそれがあります。
🚫	ケーブルの抜き差しは必ずプラグ部分を持って行ってください。また、ケーブルの線の部分に重いものを乗せたり、とがったものが触れたりしないように注意してください。線の部分に無理な力がかかると断線などのトラブルの原因となります。
🚫	この製品の上に乗ったり、重いものを乗せたりしないでください。故障の原因となります。
🚫	パイプの端面や内面及びネジの先端にご注意ください。尖った部分等で指にケガをするおそれがあります。
🚫	フットスイッチやフットペダルの下に、手や足を入れてください。挟まれてケガの原因となります。
🚫	温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、閉めきった車内など）や、湿度の多い場所（風呂場、雨天の屋外など）での使用、保管はしないでください。変形、変色、故障や性能劣化の原因となります。
🚫	製品を手入れするときは、ベンジンやシンナー、アルコール類は使用しないでください。製品を変色、変形させるおそれがあります。お手入れの際は、やわらかい布で乾拭きするか、水を含ませて固く絞った布を用いて汚れをふき取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤を含ませた布を固く絞って汚れを拭き取り、そのあとで水を含ませて固く絞った布を用いて洗剤を拭き取ってください。
🚫	電子ドラムラックには、アコースティックドラムを取り付けしないでください。クランプの破損や、ドラムの落下などで、ケガをするおそれがあります。

※ 製品の仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがあります。

1 ラックシステム RS85 の中身を確認しましょう

パッケージを開けて、すべての部品がそろっていることを確認してください。

ラックシステム RS85

- ☐ RS85 本体 (1 組)
- ☐ ゴム足 (2 個)
- ☐ ケーブルバンド (6 本)
- ☐ 組立説明書 (1 部)
 - ・RS85
 - ※ 本書ではありません。

※ [6] でケーブルを固定するときに使います。(予備も含まれています。)

2 ラックを組み立てましょう

次の手順に従って RS85 本体を組み立ててください。

注意 パイプの端面にご注意ください。尖った部分で指にけがをすることがあります。

- 箱からラックを取り出して、緩衝用ダンボールやビニールをすべて取り外します。パイプに巻かれたビニール類は外しにくいので、組み立てながら外してください。
- 右の【図-ア】をご覧ください。図のように、パイプ[G]に貼られたYAMAHA ロゴを向こう側に向けてラックを立て左手で支えながら【図-ア】に○印で示す右側2か所のノブをもう一方の手でゆるめます。
- 右の【図-イ】をご覧ください。ラック右側の脚部（パイプ[A]）をまっすぐ手前に回します。手順2でゆるめた2か所のノブを再度締めてしっかりと固定します。
- 【図-ア】に○印で示す左側のノブをゆるめ、ラック左側の脚部（パイプ[B]）をぐるっと後ろ側からまっすぐ手前に回します。ゆるめたノブを締めてしっかりと固定します。

注意 パイプ[B]は必ず後ろ側から回してください。前側から回そうとした場合、細いパイプが互いに接触して折れ曲がる可能性があります。

以下、回す箇所についてはノブを順次ゆるめ、位置が決まったら締め直して固定します。ドラムは組み立て完了後、演奏しやすいように部品の取り付け角度の微調整を行なう必要がありますのでノブは締めすぎないようにご注意ください。

- 【図-ウ】をご覧ください。左下外側の3か所のノブ（♣の位置）をゆるめ、パイプ[G]と[B]の●部をつかんで脚部のパイプ[B]が接続部の向こうから7cm程度出るようにすらしめます。同様に右側脚部のパイプ[A]も外側の3か所のノブをゆるめ、接続部の向こうから7cm程度出るようにすらしめます。ゆるめた6か所のノブを締めて固定します。

- パイプ[A]と[B]の先にそれぞれゴム足を差し込みます。
- 【図-エ】をご覧ください。パイプ[C]の付け根に2つならんだノブ（左上段の♣の位置）をゆるめ、パイプ[C]を手前にやや開いた位置まで回します。ゆるめた2つのノブを締めて固定します。

- パイプ[D]の付け根に2つならんだノブ（右中段の♣の位置）とDを支える細いパイプのノブ（右下段の♣の位置）をゆるめ、パイプ[D]をまっすぐ手前に回します。ゆるめた3つのノブを締めて固定します。

- パイプ[E]の付け根に2つならんだノブ（左中段の♣の位置）とEを支える細いパイプのノブ（左下段の♣の位置）をゆるめ、パイプ[E]をななめ内向きに45°前後の位置まで回します。ゆるめた3つのノブを締めて固定します。

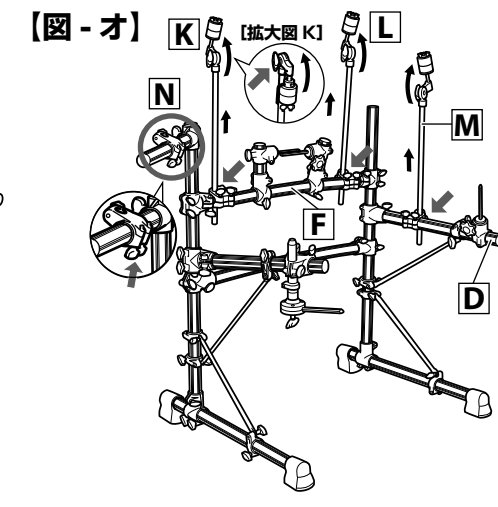
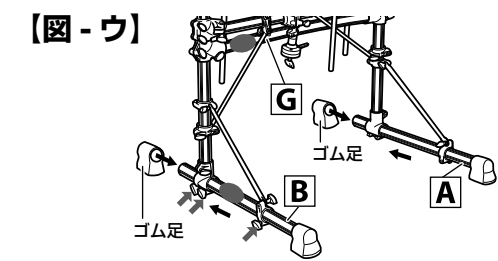
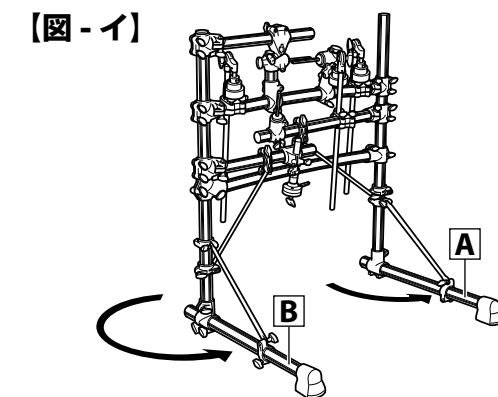
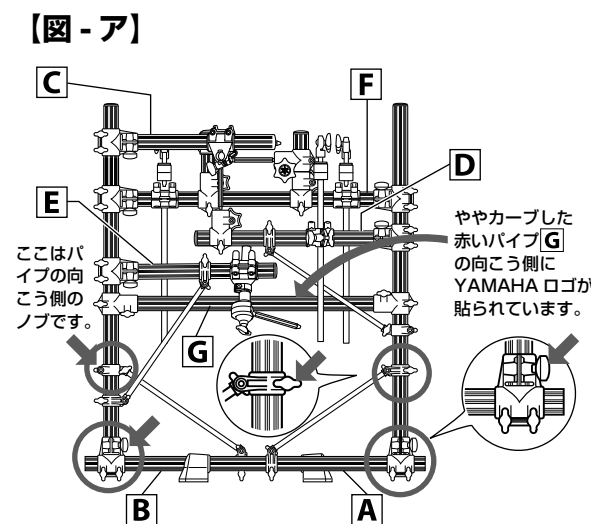
注意 ○の箇所が接触すると折れ曲がる可能性があります。

- ラック全体が安定していることを確認します。縦のパイプ[H]と[J]の上部をつかんで揺すってみて、もしラックがぐらつく場合は手順2～4で締めたノブを締め直してください。

- 右の【図-オ】をご覧ください。左右のシンバルホルダー[K]と[L]とMのノブ（パイプ[F]と[D]の向こう側の♣の位置）をゆるめ、シンバルホルダーを図のような高さまで上方向に引き出して垂直に立てます。ゆるめたノブをそれぞれ締めて固定します。

- シンバルホルダー[K]のウィングボルト（拡大図K1の♣の位置）をゆるめ、シンバルホルダーの上部を起こします。ゆるめたウィングボルトを締めて固定します。同様にシンバルホルダー[L]とMの上部も起こしてください。

- 【図-オ】に○印で示すトリガーモジュール取り付け部[N]のパイプに沿ってならんでいる2つのノブをゆるめます。取り付けたときにトリガーモジュールの操作パネル面が斜め上を向くようにトリガーモジュール取り付け部[N]を回します。力を入れて少しずつ回してください。ゆるめた2つのノブを締めて固定します。



3 パッドセットの中身とトリガーモジュールを確認しましょう

パッケージを開けたら、すべての部品がそろっていることを確認してください。

パッドセット DTP4K2SP

- ☐ タムパッド TP65 (3 個)
- ☐ リアルハイハットパッド RHH135 (1 個)
- ☐ スネアパッド TP100 (1 個)
- ☐ ハイハットクラッチ (1 個)
- ☐ スタンドベース (1 個)
- ☐ クランプボルト (4 個)
- ☐ ステレオフィオンケーブル (1 本)
- ☐ ケーブルバンド (1 本)
- ☐ シンバルパッド PCY135 (2 個)
- ☐ シンバルパッド PCY155 (1 個)
- ☐ ハイハットスタンド HS650A (1 台)
- ☐ 取扱説明書 (各1部)
 - ・TP65/65S/100/120SD
 - ・PCY65/65S/135/155
 - ・KP65
 - ・RHH135

トリガーモジュール

- ☐ DTXP4 (1 台)
- ☐ モジュールホルダー (1 個)
- ☐ AC アダプター (1 個)
- ☐ フェルト (大) (3 個)
- ☐ キックパッド KP65 (1 組)
- ☐ チューニング キー (1 個)
- ☐ 蝶ボルト (2 個)
- ☐ 回り止め金具 (3 個)

パッド類とトリガーモジュールを取り付けましょう

ラックにタムパッドなどを取り付け、キックパッドやハイハットを配置してください。

タムパッド TP65 とスネアパッド TP100 を取り付ける

- 各タムパッドとスネアパッドにクランプボルトを軽く締めておきます。(5～6回転程度)
- 正面のタムホルダー **P** と **Q** のノブ (中央の \blacktriangleright の位置) をそれぞれゆるめ、タムホルダーを **[拡大図 P]** のように手前に開きます。ゆるめたノブを締めて固定します。
- 次に右側のタムホルダー **R** のノブ (右側の \blacktriangleright の位置) をゆるめ、タムホルダーを **[拡大図 R]** の矢印のように倒して水平より少し下向きの位置まで回します。ゆるめたノブを締めて固定します。
- タムホルダー **P** にタムパッド TP65 を差し込み、クランプボルトで締めてしっかりと固定します。
- 正面の **Q** と右側の **R** の2つのタムホルダーも同様に手順 **3** と **4** を繰り返し、順にタムパッド TP65 を取り付けます。
- 左側のスネアホルダー **S** を **[拡大図 S]** のように回して垂直に起こし、上部の金属の棒をパイプ **E** の方向より少し外向きの位置まで回します。
- 手順 **6** で起こしたスネアホルダー **S** にスネアパッド TP100 を差し込み、クランプボルトで締めてしっかりと固定します。

シンバルパッド PCY135 と PCY155 を取り付ける

- シンバルホルダーの蝶ネットを外し、2つのフェルトを取ります。黒いプラスチックのパーツも左に回して外します。
- シンバルホルダーに回り止め金具を差し込み、金具のL字部分が演奏者から見て向こう側になる位置で固定します。固定するにはチューニングキーを使ってキーボルト (\blacktriangleright の位置) をしっかりと締めつけます。
- 右図のように手順 **1** で外した黒いプラスチックのパーツを差し込み、右に回して取り付けます。
- 手順 **1** で外したフェルトを1つ差し込みます。もう1つは本説明書の標準的な組み立て例では使用しません。
- 下図をご覧ください。だ円形の穴 (\blacktriangleright の位置) を回り止め金具のL字部分の先端に合わせ、シンバルパッドをシンバルホルダーに差し込みます。
※シンバルパッド PCY135 はリアルハイハットパッド RHH135 と似ているので必ず裏面の品番をお確かめ下さい。
- シンバルパッドに同梱の口径が大きいフェルトを差し込み、手順 **1** で外した蝶ネットを締めて固定します。蝶ネットは手応えがあるところまで回します。蝶ネットが十分に締まった状態でも、シンバルパッドは打面を叩くと揺れる構造になっています。

トリガーモジュール DTXP4 を取り付ける

- トリガーモジュールの底面にモジュールホルダーを蝶ネットで取り付けます。
- モジュールホルダーをホルダークランプに差し込み、ノブを締めて固定します。

キックパッド KP65 を組み立てる

- ドラムマット (別売) などが無い場合は、床に傷をつけるのを防ぐため段ボールなどを敷きます。
- キックパッドの本体から蝶ボルト、ばねワッシャー、ワッシャーをいったん外し、4組それぞれ外したままの順番で近くに置きます。
※蝶ボルトとばねワッシャー、ワッシャーがばらばらになってしまった場合は、右図のような順番でばねワッシャー、ワッシャーを取り付けてください。
- ベースをボディに組み付け、手順 **1** で外した蝶ボルト、ばねワッシャー、ワッシャーを再び取り付けて固定します。

ハイハットスタンド HS650A を組み立てる

- ドラムマット (別売) などが無い場合は、床に傷をつけるのを防ぐため段ボールなどを敷きます。
- ハイハットスタンドのウィングボルト (下図の \blacktriangleright の位置) をゆるめます。
- 三脚部を止まるまで広げます。手順 **2** でゆるめたウィングボルトを締めます。
- 下図のように連結棒をフレームの穴に差し込みます。
- 右図に \blacktriangleleft で示すウィングボルトをゆるめてハイハットクラッチを外します。
※このハイハットクラッチは本説明書の標準的な組み立て例では使用しません。
RHH135 付属のハイハットクラッチをお使いください。
- パイプ **T** からハイハットシャフト **U** を引き抜きます。
- 手順 **6** で引き抜いたハイハットシャフト **U** を右上図のナット **V** にねじ込みます。
- パイプ **T** をハイハットシャフト **U** の上から差し込み、シンバル受け皿がハイハットシャフト **U** の中間となる位置でウィングボルト **W** を締めて固定します。
- シンバル受け皿の上に乗っているフェルトとファイバーは本説明書の標準的な組み立て例では使用しませんので、外しておきます。
- リアルハイハットパッド RHH135 を取り付けます。
※RHH135 取扱説明書の「**セッティングのしかた**」をご参照ください。

ハイハットとキックパッド KP65 を設置する

- ドラムマット (別売) などが無い場合は、床に傷をつけるのを防ぐため設置する場所に段ボールなどを敷きます。
- ハイハットを、ラック RS85 の左側に設置します。
- キックパッド KP65 をラック中央の下に設置します。

5 パッドとトリガーモジュールを接続しましょう

パッドの出力をトリガーモジュールのパッド入力に接続し、配線します。

- トリガーモジュール背面パネルの INPUT 端子に 9ch マルチケーブルのストレートプラグを差し込みます。標準セットアップでは、各プラグのシールに印字されているパッド名の記号に合わせて 9ch マルチケーブルを接続します。

シールの印字と同じ記号の INPUT 端子へ
1 SNARE
2 TOM 1
3 TOM 2
4 TOM 3
5 RIDE
6 CRASH
7 HI HAT
8 KICK
9 HH CON (HI HAT CONTROL)

- 9ch マルチケーブルの **L** 字プラグ側を各パッドに差し込みます。下図の①～⑨の順 (ケーブルが短い順) に接続することをお勧めします。
- ステレオフォンケーブルの **L** 字プラグ側を下図左上のシンバルパッド PCY135 (下図の⑩) に、**ストレートプラグ** をキックパッド KP65 の PAD IN 端子 (下図の⑪) に差し込みます。

6 電源に接続しましょう

トリガーモジュールに AC アダプターを接続します。

- 電源スイッチがオフになっていることを確かめます。
- AC アダプターを取り付け、電源に接続します。DC プラグを電源端子に接続し、抜け落ちを防ぐためにコードをコードフックに巻きつけて固定します。
- ケーブルバンドを使い、○印の6か所でケーブルをパイプに固定します。
重要 ケーブルが大きくなるっていると、演奏の妨げになることがあります。

これで組み立ては完了です！
実際に音を確認する場合は、電源スイッチを入れる前にアンプ内蔵スピーカーやヘッドフォンを接続してください。